

# シンガポールにおいて自治体等職員に対する研修を実施

シンガポール事務所

2022（令和4）年8月17日（水）から8月26日（金）（国内研修3日間含む）にかけて、シンガポールにおいて、「自治体の海外戦略～活力あるアジアとの交流～」と題して、全国市町村国際文化研修所（JIAM）との共催により、視察研修を実施しました。

研修には6名の自治体等職員の参加があり、Ministry of Health（シンガポール保健省）、Civil Defence Academy（消防・救急・保安に係る訓練機関）、Our Tampines Hub（シンガポールのコミュニティセンター）等の現地機関や、在星日本国大使館、JETRO 及び JNTO のシンガポール事務所といった日系機関、その他現地に拠点を構える企業等を訪問しました。

2019（令和元）年以降約3年ぶりの実施となる今回の視察研修では訪日観光や販路開拓、IT 政策等様々な分野に焦点を当て、18にのぼる視察先を訪問しました。

## 1. シンガポールの高齢者施策

シンガポールの人口ピラミッドは日本と同様に  
つぼ型であり、急速に高齢化が進んでいる社会で  
す。研修団はシンガポール保健省（MOH）を訪問し、  
高齢者の孤立を防ぎ、社会参画を促すアクティビテ  
ィや、段階に応じて必要な支援にアクセスできる施  
設介護や在宅介護の仕組み等の説明を受けました。  
日本においても課題となっている介護者の確保や  
支援に関する取組も行われていました。保健省側か



保健省での質疑応答の様子

らも日本の高齢者に関する取組についても参考としたいという要望を受け、研修団からも、自治体の取組を事例としてあげつつ発表を行いました。共通の課題を抱えるシンガポールの取組についてお話を伺えたことは、改めて日本における取組についても学び、新たな視点をもって認識することのできる機会となりました。

## 2. 情報技術の利活用

シンガポールの保安・救急・消防は Singapore Civil Defence Force（シンガポール民間防衛隊）という組織が担っています。今回の研修では、SCDF の訓練機関である Civil Defence Academy を訪問し、シンガポールにおいて国民の生活を守るための人材育成の取組等についてブリーフィングを受けた後、実際の訓練施設を視察しました。訓練施設においては、隊員の身体的情報から訓練上の強み・弱みまでをデータで一元的に管理することのできるシステムや、バーチャルリアリティを用いて様々なシチュエーション設定を行いつつ火災や救助対応の訓練を行うことができるプログラム、脳の血流をモニタリングしながら行う認知機能向上の訓練等、積極的に情報技術を訓練に取り入れ、活用している様子が印象的でした。

### 3. 都市国家ならではの都市政策

今回の行程では、シンガポール都市再開発庁（URA）の元職員による講義や、シンガポールの水事情を支える「新生水」とその背景について解説を行うニューウォーター・ビジターセンターの訪問等、シンガポールの都市政策について知見を深める機会が多くありました。URA の元職員による講義では、利用できる土地が限られているからこそ極めて効率的な都市計画や交通・緑化政策について学んだ後、最も古い公営住宅地のひとつであるトアパヨ地区に赴き、住居や交通事情等について、実際に街中や HDB ハブを視察しながら説明を受けました。国民の 80%以上が居住する HDB（公営住宅）がどのような計画に基づいて建設されてきたのかや、渋滞を抑制するための車両の台数制限等、日本と異なる取組に熱心に耳を傾けていました。



HDB ハブでの講義の様子

この度の研修は、官民間わす幅広い分野において、シンガポールの急速な発展の背景にある理念や社会課題に対する取組姿勢について知見を深めることのできる機会となりました。

クリアシンガポール事務所では、今後とも自治体間の交流促進及び自治体の施策立案に資する取組を行って参ります。

（中田所長補佐 栃木県小山市派遣）

